

平成28年度美濃加茂市議会 議会改革特別委員会主催  
長野県飯田市議会行政視察 (H28.4/15)

## 「議会による事務事業評価と執行部への提言について」

- ・ 参 加 議会改革特別委員会 委 員 長 柘植宏一  
副委員長 金井文敏  
委 員 山田 栄  
片桐美良  
高井 厚  
村瀬正樹  
坂井知足  
日置祥子  
参加議員 渡辺孝男  
酒向信幸  
渡辺益巳  
佐合広和  
前田 孝  
森 弓子
- ・ 随 行 美濃加茂市議会事務局 局 長 梅村真一  
芝辻竜也



### 飯田市議会 木下議長あいさつ

リニア中央新幹線の長野県駅設置、三遠南信自動車道の開通によるまちづくりに期待している。議会においては、議会による事務事業評価等議会改革をすすめている。また、干し柿の「市田柿」の産地としても知られているので、「堂上蜂屋柿」で知られる美濃加茂市との交流を大切にしていきたい。



### 美濃加茂市議会 柘植委員長あいさつ

年度当初の忙しい中に行政視察をお願いして恐縮している。お互いに山に囲まれ、大きな川の流れる地域であり、地域課題が似ているところもあると思う。今日の研修を参考に、一步一步確実に取り組んでいきたい。



## 意見交換の主な内容

<議会による事務事業評価について>

Q 実績評価表が執行部から提出される時期は。すべての事業について提出されるか。

A 6月定例会までには担当において作成し、7月20日頃に全件（約800事業）をCDに入れて全議員に配布する。

Q これをもとに各常任委員会で評価対象事業の拾い上げを行うのか。

A 約800の事業のうち、施策的なものを対象とするので約600事業。これを、説明を受けた後、30事業ほどに絞る。さらに絞って20事業ほどを評価対象とする。選定は正副委員長の判断によるが、何年も評価を行ってきて重要と思われるもの、金額の大きいものから、評価に値すると判断されたものを対象とする。

Q 委員会としての意見集約はどのように行うか。

A その事業に対して、各委員は拡大・現状・縮小と判定するが、自由討議によって理解を深めていく中で方向性が現れ、意見が集約されていく。

Q 提言は予算編成に反映されているか。

A すべてが反映されているわけではない。議会の提言と執行部の方向と違う場合もあるが、提言の後に関係部長にも議会から説明を行っている。提言する前に執行部と事前協議は行わない。

- Q 予算審査のための資料は提示されているか。  
A 予算書と昨年度実績書である。
- Q 提言の結果としてフィードバックはどのように現れているか。  
A 予算に関しては、執行部が対応したことを説明する。
- Q 予算の積み上げ内容がよくわからないものについてはどのように確認しているか。  
A 個々の予算の内容については、代表質問や一般質問で対応する。委員会としては、事務事業に対してどうなのかという視点で確認するので、評価表によって判断する。
- Q 予算の内容が分かっているかわかっていないかで委員の評価も分かれてくるが。  
A 評価が割れてしまうようなケースはまれである。
- Q 温泉交流館事業に廃止を提言したが、その後の議員のかかわり方は。  
A 「市が今後の運営について方針をきちんと出すなら認める」という条件付きで廃止を提言。市からなかなか方向性が出てこない中、議会と地域、観光協会、市で現場視察を行い、市が方向性を出すよう求めた。
- Q 7月から2カ月で委員会は何日開催するのか。  
A 2日程度開催している。

#### <その他>

- Q パネルを使った質問のガイドラインの内容は。  
A 大きさはA1が最大。内容は、会議録に反映されるよう読み上げ、とし、6月定例会から実施する。
- Q 議会の活動報告会の開催方法は。  
A 年1回、9月議会が終わってから、委員会ごとにテーマを決めて行う。集客は、まちづくり委員会にお願いをして集めている。今年度は、まちづくりとはあまり縁のない団体等、高校生とか。そこへ議会から呼びかけをして開催していこうと計画している。
- 年間延べ約500人が参加。議員は6会場全て出席。全体会で説明の後、常任委員会ごとにテーマを設定して分科会を行う。地区公民館等を活用。
- Q 議会改革で一番苦勞された点は。  
A 議員間の討議が平行線になってしまうときには苦勞する。そのようなときは、会派に持ち帰っていただき、冷却期間を置くことで解決の糸口を見つけてきた。
- Q 議長、監査委員の会派離脱に対する考えは。  
A 離脱はしていない。中立性は本人の判断。

Q 商工観光課など、市の部署が外部に設置されているが、どのように評価されているか。

A 市長の現場主義の考えに基づいているが、おかしいと考えている。施設借用料の発生などもあり、行政評価では廃止を出している。たとえば農振除外等農業委員会に関する手続きは1つの課で済まないのも、市長の方針に矛盾が発生している。

Q 行政組織の序列についてどのように考えているか。

A 特別にはないが、議場においては、答弁の関係で配置を考えている。

Q 会派についてはどのように考えているか。

A 個人的には、勉強するためのグループであって会派拘束は外した方がよいと思う。